



森林レンジャーがゆく (41)

一年のサークル

また一年の終わりが近づいてきました。一年間で季節を巡って、あきる野の自然のさまざまなエピソードを目撃したり、いろいろな変化を感じたり、たくさんの生き物に出会いました。

自然には、終わりがありませぬ。バトンタッチしながら、一年中活動する仕組みができています。

12月は、冬に姿を消す種と頑張っている種に分かれる時期です。

越冬に入った哺乳類の一部や爬虫類、卵や蛹^{むすぶ}などの状態で暖かい季節を待つ昆虫、早春の雨を待ちスタンバイしているアカガエルやサンショウウオなどの両生類、必死に実を採食する冬鳥、繁殖の準備に入るオオタカやクマタカなどの猛禽類、雪山でも動き回るテンやシカなど、生き物たちは「冬が苦手」「冬を好む」「冬でも頑張る」の三つのグループに分けられるような気がします。自分は「冬でも頑張る」のグループに入るようで、これから春までの展開を考えると、この時期がとても楽しみです。

今月からは両生類などの産卵

期に向け、ビオトープの整備を行ったり、繁殖に入る猛禽類たちの動きを観察したり、鳥と実の関係を調べたりと、春の自然の中で動き出すたくさんの命のために私も自然の変化をチェックしながら、保護や整備につながるポイントを探します。そして、厳しい寒さの中でもあきらめず活動する生き物たちに負けないように、来年も頑張りたいと思います。



一年を通して、市内の平地や山地など、さまざまな場所で見られるハヤブサ。この時期からは、特に河原などの開けた環境で見かけることが多くなります。川沿いを散歩する方は、ハヤブサの素晴らしい飛翔や狩りの瞬間に注目してください。

(パブロ)